

抗ヒトPD-1抗体投与後に 1型糖尿病を発症した2症例

今井健二郎¹⁾²⁾ 納 啓一郎²⁾³⁾ 大橋 健²⁾³⁾

Kenjiro Imai Keiichiro Osame Ken Ohashi

国立国際医療研究センター研究所糖尿病情報センター¹⁾

国立がん研究センター東病院糖尿病腫瘍外来²⁾

国立がん研究センター中央病院総合内科・歯科・がん救急科³⁾

はじめに

近年、がん治療において抗ヒトPD-1/PD-L1抗体が脚光を浴びている。適応疾患の拡大傾向もある一方で、抗ヒトPD-1/PD-L1抗体投与後に関連した1型糖尿病の

発症も報告されている。抗ヒトPD-1抗体関連1型糖尿病は重篤な状況に至ることもあるため、本稿では2つの症例¹⁾を提示し概説する。

コンサルテーション：症例1

【呼吸器内科からの紹介状の内容】

ニボルマブ投与後の方で、著明な高血糖とアシドーシスを認め入院したため、精査加療をお願いします。

患者背景

【患者】 31歳男性，身長 177 cm，体重61 kg，

BMI 19.4 kg/m²

【主訴】 嘔気，倦怠感，食欲不振

【既往歴】 特記すべきことなし(糖尿病の既往歴なし)

【家族歴】 祖母が肺癌

【現病歴】 半年ほど前から，肺癌Stage IV(T3N2M1b)に対して化学療法を継続していた。12日前よりニボルマブを開始，2日前より悪心・倦怠感が出現し，当日に症状が強くJCS1(意識清明とはいえない)の意識障害がみられたため緊急入院となった。血糖値743 mg/dLと著明

に高値であり，糖尿病腫瘍科へコンサルテーションとなった。

【呼吸器科治療歴】

肺癌に対して，シスプラチン+ペメトレキセド療法，ドセタキセル単独療法を施行後，ニボルマブを開始(ステロイドの併用はなし)。

【受診時検査所見】

血圧113/66 mmHg，脈拍110/分，SpO₂ 98%(Room Air)，体温 37.2℃，血糖値743 mg/dL，HbA1c 6.4%，静脈血pH 7.304，静脈血HCO₃⁻ 20.6 mEq/L，尿糖(4+)，尿中ケトン体(-)，アミラーゼ 18 U/L